国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料

令和 2 年 5 月 13 日

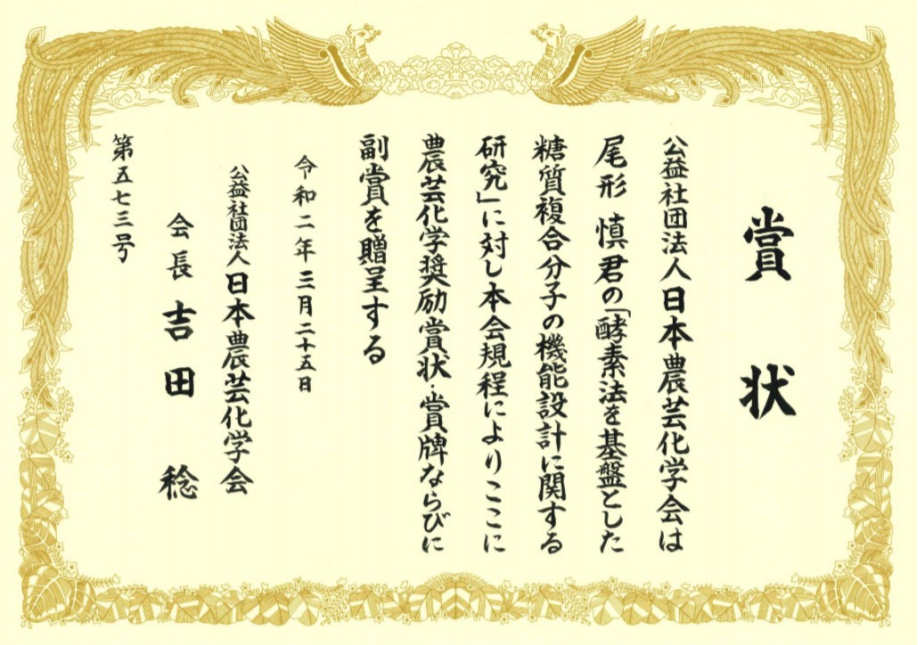
食農学類 尾形慎准教授が 2020 年度農芸化学奨励賞を受賞！

食農学類の尾形慎准教授が、2020 年度農芸化学奨励賞を受賞しました。
本賞は、現在会員数が 1 万人を超える日本農芸化学会において、農芸化学の進歩に寄与する優れた研究をなし、且つ将来の発展が期待される正会員に対して贈られるもので、尾形慎准教授がこれまで行ってきた「酵素法を基盤とした糖質複合分子の機能設計に関する研究」が評価され今回の受賞に至りました。

【受賞概要】
所属：福島大学　食農学類
氏名：尾形 慎　准教授
受賞名：公益社団法人日本農芸化学会　2020 年度農芸化学奨励賞
業績論文表題：酵素法を基盤とした糖質複合分子の機能設計に関する研究

【業績の概要】
受賞者は、酵素法を利用した独自技術により、これまで量的供給が困難とされてきた機能性オリゴ糖の合成法を確立し、さらにはこれらオリゴ糖を異分子へ導入することで、天然の分子認識素材をも遥かに凌駕する機能性糖質複合分子を次々と開発しました。最も代表的な成果の一つが、インフルエンザウイルスが感染の際に認識する宿主細胞表面上糖鎖を酵素法により構築し、それを納豆菌由来のポリペプチドにハイブリッド化することで、これまでにない強力なウイルス吸着素材を開発したことです。この基盤技術を発展させることで、昨年度には馬インフルエンザウイルスの超微量検出法の開発にも成功しています。その他にも、糖質を構造基盤とした多彩な分子合成に取り組んでおり、これら一連の研究成果が評価され今回の受賞に至りました。

【日本農芸化学会について】
日本農芸化学会は、農芸化学分野の基礎及び応用研究の進歩を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することにより人類の福祉の向上に資することを目的として、1924 年に設立された学術団体で、2024 年には創立 100 周年を迎える農学系で最大規模を誇る学会です。



賞状

公益社団法人日本農芸化学会は
尾形 慎君の「酵素法を基盤とした
糖質複合分子の機能設計に関する
研究」に対し本会規程によりここに
農芸化学奨励賞状・賞牌ならびに
副賞を贈呈する

令和二年三月二十五日

公益社団法人日本農芸化学会
会長 吉田 稔

第五七三号

賞状

賞牌

（お問い合わせ先）
食農学類　准教授　　尾形（おがた）　慎（まこと）
電　話：024-503-4982
メール：ogata@agri.fukushima-u.ac.jp